

第3回木曾三川ふれあいセミナー

トンボ池の保全活動について

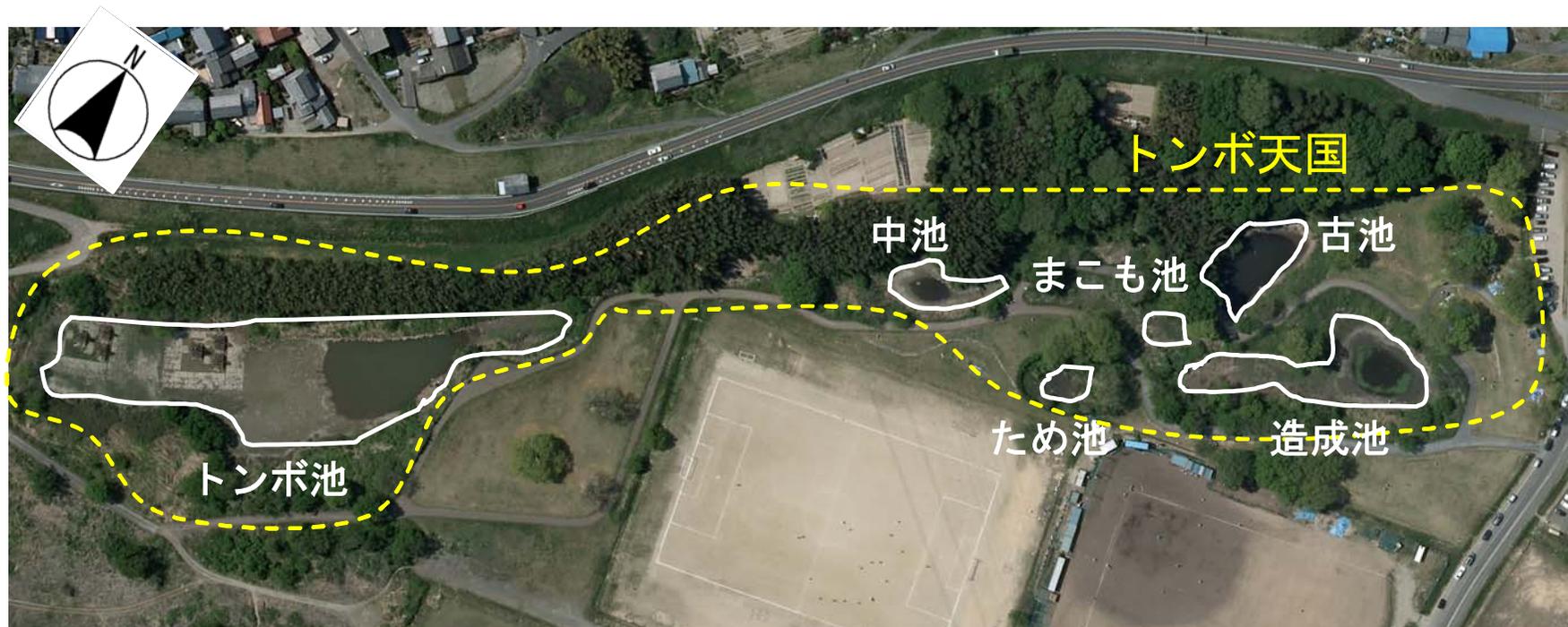
平成21年3月14日

トンボ池を守る会 会長

可児 幸彦

トンボ天国とは

- トンボ天国とは、西からトンボ池、中池、ため池、まこも池、古池、造成池の計6池を合わせてトンボ天国という。



トンボ池(トンボ天国)の経緯

- 昭和34年頃、堤防沿いに池があり、最下流に位置する池は新境川とつながっていた。
- その後昭和42年頃には、本川の砂利掘削で新境川の流れの方向が変わり、新境川とトンボ池は分断された。
- 昭和48年にトンボ池が埋め立てられようとした時、トンボ研究者の意見により埋め立て工事は中止され、昭和50年に造成池を整備している。
- 昭和47年より笠松町が景勝地として保護を行っており、「岐阜県の名水50選」「木曾三川三十六景」、「水と緑の環境百選」に指定され、平成元年には環境省の「ふるさといきもの里」に選定されている。
- 昭和63年に笠松町により、周辺の遊歩道等が整備されている。
- 平成元年頃から池の水位の低下や富栄養化等により、湿地環境の悪化が懸念されている。また、近年においては、特定外来生物であるブルーギルや要注意外来生物であるカムルーチ等の侵入・繁殖が確認され、捕食圧によりトンボ類や魚類等の生息が脅かされている。
- **平成15年に設立された「トンボ池を守る会」**等の市民が中心となり、ゴミ拾いや自然観察会、小学生等への環境学習など様々な活動が実施されている。



昭和34年秋



昭和43年冬



昭和56年5月

トンボ天国には伝統的は河川工法が残る



かつて、トンボ天国には、貴重な動植物が生息していた。

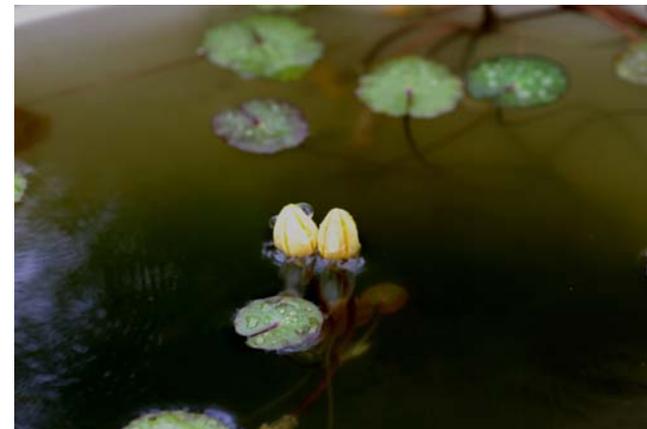


ベニイトトンボ

- ①トンボ類……………30種
40年程前には47種
- ②水性植物……………60種
希少水性植物
オニバス・イヌタヌキモ・デンジソウ
アサザ
- ③池周辺の植物………200種
- ④鳥類……………50種
オオタカがエサをくわえて飛んでいる
ところを確認
- ⑤ほ乳類……………7種
珍しい種類
ヌートリア・ノウサギ・コウモリ
アライグマ
- ⑥昆虫類……………408種
レッド
(トダセスジゲンゴロウ・スナヨコバイ・
コオイムシ・コバンムシ)
- ⑦水生昆虫……………45種
- ⑧魚類……………11種
外来魚
(ブルーギル・カムルーチ)
- ⑨は虫類……………6種
- ⑩両生類……………4種
- ⑪ミミズ・貝類……………16種



オニバス



アサザ

冬期に水枯れが生じることがある！



トンボ池満水(上段)水枯れ(下段)

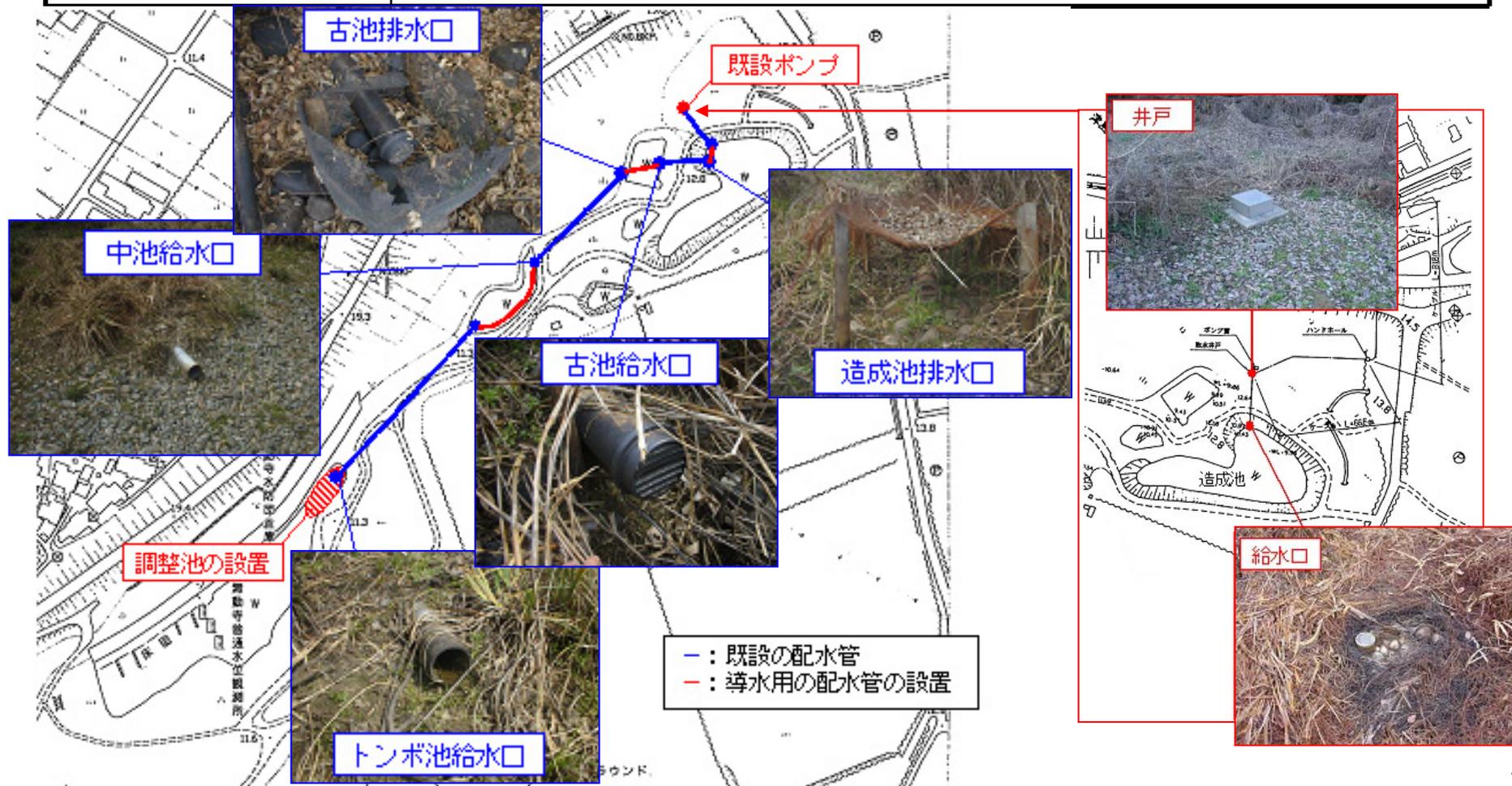


造成池の水枯れ

- 冬期には、地下水位の低下に伴い、トンボ池をはじめ各池の水位が低下する。
また、まったく池の水がなくなることもあり、トンボ天国の動植物に大きな悪影響を与えている。

トンボ天国のポンプの設置状況、機能、課題

項目	内容
地下水ポンプ及び配管設備の仕様等	<ul style="list-style-type: none"> 既設ポンプ設置仕様: 深井戸水中ポンプ、深さGL-35m、 ポンプ能力: 40A × 20m × 1.5kw × 150L/min 既設パイプ(池間の送水用): 水位差を用い給水配管
課題点	<ul style="list-style-type: none"> 設置されているポンプは造成池に注水して、旧河道沿いに各池を経由してトンボ池に水を送る事となっているが、現状造成池の水位を多少上げることはできても、トンボ池に水を導くことは困難。 揚水地下水に鉄、マンガン、亜鉛を多く含み使用には何らかの処理が必要。



外来生物の侵入・繁殖による在来種への影響が大きい！

- 水生生物を見ると**ブルーギル・カムルチ**や**アメリカザリガニ**など外来生物の侵入・繁殖による捕食圧によりトンボ類や魚類等の生息が脅かされていると考えられる。外来魚のタイリクバラタナゴによる種間の競合により、在来魚のタナゴの生息に影響を与えている恐れがある。

トンボ天国の各池における外来生物の確認状況

和名/池	トンボ池	中池	ため池	古池	造成池	備考
タイリクバラタナゴ		○		○		要注意(1)
ブルーギル	○	○		○	○	特定
カムルチー	○	○			○	要注意(2)
ミシシippアカミミガメ	○			○	○	要注意(1)
ウシガエル	○	○	○	○	○	特定
アメリカザリガニ	○	○	○	○	○	要注意(1)



ブルーギル

特定外来生物による生態系等に係わる被害の防止に関する法律(外来生物法)

○特定：特定外来生物（海外起源の外来生物であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの）

○要注意：要注意外来生物

要注意（1）：被害に係る一定の知見はあり、引き続き特定外来生物等への指定の適否について検討する外来生物

要注意（2）：被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物

要注意（3）：選定の対象とならないが注意喚起が必要な外来生物

・ブルーギルは昭和63年以降に確認され、現在個体数も多い。

トンボ天国における外来生物の経年の確認状況

和名/年	昭和50年	昭和63年	平成16年	平成17年	平成18年
タイリクバラタナゴ		○	○	○	
オオクチバス		○			
ブルーギル		○	○	○	○(52)
カムルチー	○	○	○	○	○(1)
ミシシippアカミミガメ		○	○	-	-
ウシガエル	○	○	○	○	○
アメリカザリガニ	○	○	○	○	○

(): 個体数、-: 調査なし

※平成16年以前：平成16年度笠松トンボ天国環境調査報告書（笠松町）

※平成17以降：木曾川中流部環境対策検討業務：木曾川上流河川事務所（平成17年～平成18年）

トンボ池を守る会の活動 1



トンボ池の土採取

トンボ池を守る会の活動 2



トンボ池の土から出たタデ



トンボ池の土から出たタデの花

トンボ池を守る会の活動 3



トンボ池の土から出たイ草



トンボ池の土から出た水草の花

トンボ池を守る会の活動 4



プールからヤゴ採取



笠松小学校にて

トンボ池を守る会の活動 5



トンボの幼虫ヤゴ



手のひらにヤゴ

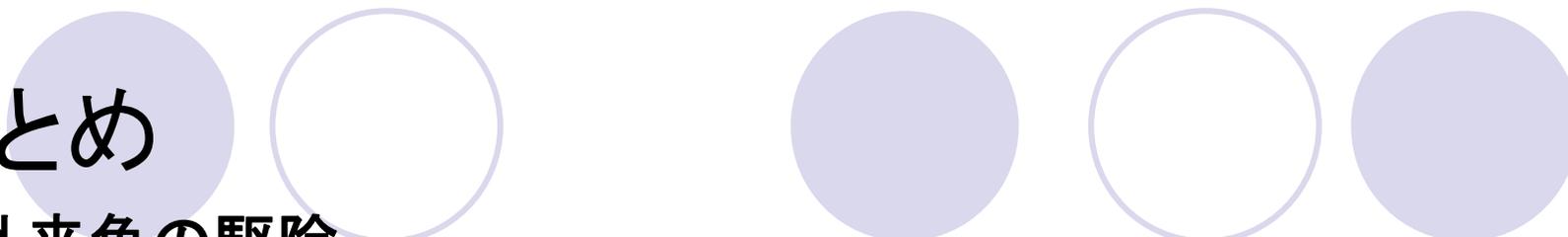
トンボ池を守る会の活動 6



ヤゴから羽化開始



トンボになり飛び立つ前



まとめ

●外来魚の駆除

トンボ類や魚類等の生息が脅かされていると考えられる**外来魚の駆除が必要**。

●水枯れの防止

水枯れ防止に現在地下水ポンプを設置しているが、ポンプ容量が小さく、また地下水質も鉄、マンガン、亜鉛を多く含み、トンボ天国周辺の動植物に悪影響が考えられる。

●ヘドロの除去

トンボ池を始め、各池の池底へは有機物を含んだ泥が堆積しており、トンボ天国周辺のトンボの幼虫等へ悪影響を与えていると考えられる。

●トンボ天国周辺の環境

トンボ天国周辺には北側には竹林が繁茂し、また、南側にはグラウンドが整備されているなど、トンボの成虫等にはあまり良くない環境となっていると考えられる。

●最後に

トンボ天国は、このように多くの課題はありますが、トンボ池を守る会として地域の方々と連携し、トンボを含めた環境を今後も守っていきたいと思います。